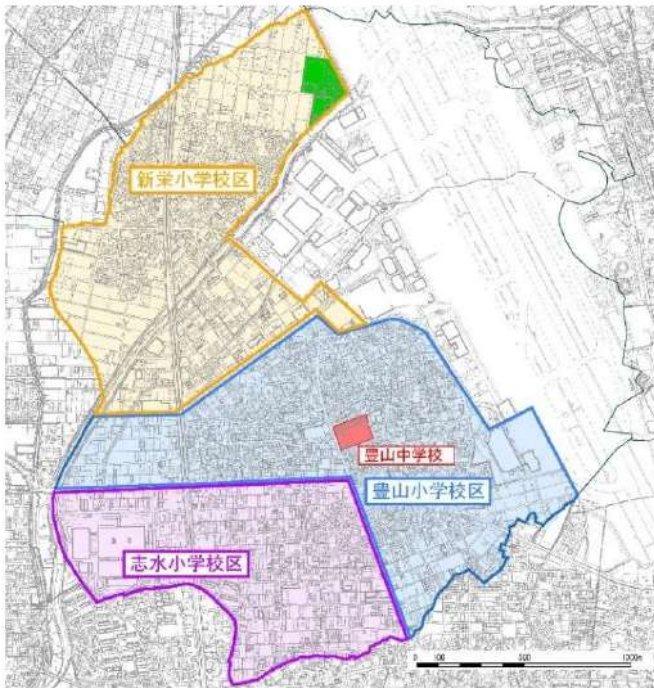


# 目指すべき中学校のあり方（概要版）

## 1. はじめに

豊山中学校は、町内唯一の中学校として、昭和 38 年に竣工し、現在は築後約 60 年を経過している。これまでに随時修繕等を実施してきたものの、平成 30 年度に実施した「豊山町学校施設改築・長寿命化計画」の調査を踏まえると、建物の老朽化が著しいことから、長寿命化改修の適正時期を過ぎていると思われる。学校施設は、単に児童生徒の学習の場にとどまらず、地域住民の生活に深く関わりがある施設でもあるため、将来の学校施設に求められる役割や機能を考慮し、新たに豊山中学校の改築整備を行うことが必要である。

豊山中学校改築に向けて、学校施設を目指すべき姿をより具体的な内容としていくため、「豊山町中学校施設整備基本構想会議」を令和 3 年 6 月から計 8 回開催し、この間、委員からの専門的知見に基づく議論を重ねてきた。また、生徒・教職員や関係団体、保護者を始め、教育経験者からよりよい中学校としていくためのご意見をお聴きし、更に町民へのアンケートを実施し、幅広く町民の意見を伺うことができた。こうした過程を経て得られた検討成果をまとめた。



所在地	愛知県西春日井郡豊山町大字豊場字前池39	
用途地域	第一種中高層住居専用地域・第一種住居地域	
地域地区	第二種高度地区(H=20m)	
構造種別	RC造	
階数	4階建て	
敷地面積	15,946.00㎡	
延床面積	9,659.76㎡	
代表建築年度	1963年	
保有教室数	普通教室19室	特別教室18室
生徒数	535人(令和4年5月1日時点)	



## 2. 豊山中学校の課題

### 運営状況について

- ・生徒数は増加傾向であり、全国平均以上である
- ・学級数は標準である
- ・現状、空き教室数は少ない

### 施設機能について

- ・体育館の屋内プールには可動式トップライトが取り付けられているが、現在はその機能を十分に果たしていない
- ・屋内プールの維持費が高い
- ・校庭の砂が飛散しやすく近隣の迷惑となっており、体育館や外階段にも砂が溜まり危険

### 構造躯体について

- ・校舎の耐震補強工事は実施済み
- ・築年数が約 60 年となっており老朽化が著しい
- ・既存施設は漏水痕や躯体のひび割れが多数あり、比較的新しい体育館棟においても構造クラックが広範囲にわたっている

### 周辺環境について

- ・隣接住宅への日影環境が不良である
- ・駐車場は現状不足している
- ・密集市街地に囲まれており、住宅地と隣接する部分に狭あい道路が見受けられるため、工事を行う際に配慮が必要

### 3. 豊山中学校の改築

#### (1) 教育環境の質的向上

教育環境の質的向上は、生徒の学力向上、豊かな人間性構築に不可欠である。また、教職員の執務環境を改善することにより、効率的で効果的な教育の実現を図ることができる。

##### ○多様な学習形態への対応

- ・普通教室の机サイズはタブレット、教科書、ノートが広げられる大きさを基準とする。
- ・生徒がゆったりと落ち着いて学べるよう、各教室は現状(約63㎡)以上の面積を確保する。
- ・教室内のロッカーは使い勝手が良いようにできる限り大きく整備する。
- ・廊下、階段等は幅を広くするなどにより、生徒の学習の場としての機能を確保する。
- ・タブレットの有効利用ができるよう、モニターなどを含めた総合的なICT教室環境を計画する。
- ・現状以上の機能を基本としたグラウンドを計画する。

##### ○特色ある教育環境

- ・特別教室及び準備室を充実させ、様々な教育ができるよう整備する。
- ・読書活動を一層推進し、授業における図書室活用の拡大に向け、図書室機能を向上させる。

##### ○生徒数に対応した空間の確保

- ・1クラス35人を基準に1学年180人前後を想定しつつ、各学年6クラス編成が可能な配置とする。
- ・同一学年は同一階に配置できるように余裕教室も考慮した計画とする。
- ・余裕教室は、今後の教育環境の変化を見込み多目的利用や少人数学習にも対応できるよう整備する。
- ・障がいの種別に柔軟に対応できる教室を計画する。

##### ○働きやすい執務環境

- ・校務センター化や多目的に利用可能な共有スペースなど働く場所として機能的な職員室を整備する。
- ・将来の職員増加にも対応できるよう整備する。
- ・休憩室やシャワー、リフレッシュスペースなど、教職員の労働環境の質的向上を図る。
- ・教職員用駐車場の十分な台数確保、ゆとりある駐車スペースを確保する。

#### (2) 快適な学習生活空間・環境への配慮

生徒にとって日々の学習・生活の場所となる学校施設は、生徒の学習意欲を向上させるためにも、快適な環境づくりが必要である。学習面だけではなく、生徒の精神面でも安心して利用できることが重要である。

環境面では、地球環境に配慮しつつ環境教育教材としても利用できる学校施設づくりを目指すべきである。

##### ○快適な学習生活空間

- ・普通教室、特別教室には空調設備を設置する。
- ・トイレ器具は洋式を基本とし、生徒数に対して十分な数の器具を設置する。
- ・トイレ内の床は乾式とし、清掃しやすく衛生的な施設を計画する。
- ・トイレは、広く明るい空間を計画する。
- ・多様性に配慮したトイレを設置する。

##### ○環境への配慮

- ・校舎は自然採光、自然換気により明るく過ごし易い環境にする。
- ・普通教室は南向きを基本とし、教室内で十分な自然光が取り入れられる計画とする。

##### ○だれもが使いやすい学校

- ・バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を徹底する。
- ・個別の配慮を必要とする生徒が利用できる部屋を整備する。

### (3) 地域コミュニティの拠点形成

学校施設は、生徒の学びの場だけではなく、地域のコミュニティの拠点としても位置づけられ、日頃から学校開放などで多くの町民に利用されている。新しい中学校でも、これまでと同様に学校を開放し、町民が様々な活動で利用できるよう整備することが重要である。

#### ○中学校と地域の連携・協働、地域開放、地域施設との複合

- ・地域開放部分と学校利用部分はセキュリティ区分を明確に計画する。
- ・地域利用者専用の出入口を設け、生徒・教職員との動線交差に配慮する。
- ・十分な数の駐車場を整備し、地域開放や学校行事等で町民が訪問した際に利用できるよう計画する。
- ・グラウンド、体育館等は地域開放ができるよう町民の利用も考慮した配置計画とする。

### (4) 安全安心な施設環境の確保

大規模な災害が発生した際に、学校施設が安全に継続して利用ができるように、また、町の指定緊急避難所として万全の災害対策が取られた計画が必要となる。新たな豊山中学校では、災害時だけではなく、日々の生活の中でも、生徒が安心して過ごすことができる学校となるよう計画を立てることが重要である。

#### ○災害に対応した学校

- ・校舎は耐震構造を基本とし、重要度係数は文部科学省の構造設計指針に則り 1.25 以上とする。
- ・避難所として必要な機能、施設について、防災担当部局と連携しながら計画する。

#### ○日常の安全性確保

- ・窓をはじめとする開口部からの侵入防止、地域開放に伴う利用者の増加に対して適切な安全性を確保する。
- ・生徒、教職員のプライバシーに最大限配慮しつつ、不審者侵入の防止を図るため、防犯カメラを適所に設置する。
- ・感染症対策として有効である手洗い場を適所に設置する。
- ・保健室と職員室を近接させるなど、生徒の安全管理に目が届きやすい環境を整備する。
- ・緊急車両が通れる門の広さ、周辺道路からの進入のしやすさに配慮する。

### (5) 財政負担を軽減する効率的な施設整備・運営

新たな豊山中学校建設は、建設費用、将来的な維持管理費用ともに町の財政への負担が大きな事業となる。適切な事業手法の選定や効率的な施設整備・運営がなされないと、将来的には町の財政状況に大きな影響を与える可能性がある。そのため、事業手法及び施設整備・運営を最適化した上で事業を進めていくことが重要である。

#### ○計画的な整備、敷地利用の効率化

- ・余裕教室を考慮した計画とし、効率的で将来の改修も考慮した学校施設計画を行う。
- ・どの生徒も通学の負担が少ない場所、安全な通学路が確保できる場所に学校を計画する。
- ・工事期間中であっても、行事の中止や教室の明るさ確保など、生徒の学習環境に与える影響を最小限に抑える計画を行う。

#### ○維持管理に配慮した施設計画

- ・中長期修繕計画を作成し、改築時より将来発生する維持管理費用を想定する。
- ・維持管理費削減が図れるメンテナンス性に優れた建材を利用する。
- ・機器更新の際に大規模な改修が発生しないよう、ゆとりをもたせた教室を計画する。

## 4. アンケート結果

小学校区ごとに無作為抽出した中学生以上の町民2,000名にアンケートを実施した。(回答者 673名)

